

クローバー Clover

vol. 71

2023年12月発行
編集・発行
君津中央病院
☎0438(36)1071



<http://www.hospital.kisarazu.chiba.jp>

脳神経内科診療の様子



理念

私たちは、良質で安全な医療を提供し、地域の皆さまに親しまれ、信頼される病院をめざします。



日本医療機能評価機構

認定第JC295-4号
一般病院2(3rdG:Ver. 2.0)
2019.8.23~2024.8.22

日本医療機能評価機構とは、市民が適切で質の高い医療を安心して享受できるように、医療機関の機能を学術的観点から評価する第三者機関です

使用する道具



基本方針

- 1 待遇とサービスに心がけ、心が安らぐ癒しの環境を整えます。
- 2 高度で良質なわかりやすい医療を提供します。
- 3 包括医療を実践し、地域との連携を大切にします。
- 4 救命救急医療体制の確立と小児、周産期及び終末期医療の充実をめざします。
- 5 職員の教育・研修を推進し、自己研鑽に努めます。
- 6 病院で働く人が一体となり、経営の健全化と満足感のある職場をめざします。

目次

| | | | |
|------------------|---------|--------------|---------|
| 医務局 脳神経内科 | 1 | 認知症ケアチーム | 5 |
| 医務局 糖尿病・内分泌・代謝内科 | 2 | 君津中央病院附属看護学校 | 6 |
| 看護局 10階東病棟 | 3 | インフォメーション | 7 |
| 医療技術局 放射線技術科 | 4 | | |

医務局 脳神経内科の紹介

脳神経内科は主に神経（脳や脊髄、末梢神経）の病気を診療する内科です。脳神経内科と混同されやすいのが精神科と心療内科です。一般に精神科や心療内科は気分の変調（うつ病や躁病、統合失調症）、心の問題を扱う診療科です。それに対して脳神経内科は神経を診る内科ですので、拝見する症状としては頭痛、めまい、ふらつき、身体の一部の脱力、しびれなどの感覚の異常、手足が勝手に動いてしまう（不随意運動、けいれん）、歩きにくい、物が二重に見える、呂律が回らない、物忘れ、意識障害などがあります。

代表的な脳神経内科の病気は以下の通りです。

- ・ 脳卒中（脳梗塞、脳出血、一過性脳虚血発作など）
- ・ 髄膜炎・脳炎
- ・ 神経難病（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、重症筋無力症）
- ・ てんかん
- ・ 末梢神経疾患
- ・ 認知症（アルツハイマー病など）
- ・ 一部の筋疾患

君津中央病院脳神経内科には3名の常勤医と2名の非常勤医が勤務しています。当地域（木更津、君津、富津、袖ヶ浦）で脳神経内科の入院加療を行っている施設は当院だけです。従って入院での診療が必要な方や神経難病の様に他の医療機関では対応が困難な方は当院で診る事となります。



外来診療

外来診療は平日の月曜から金曜までの午前中です。新患担当と再来担当の二人の医師で診察しています。少ない医療資源でより良い医療を行うため、新患外来の受診に際しては普段の様子をよく知っているかかりつけ医からの紹介状を貰った上で受診予約を取って頂く様にお願いしております。現在は午前10時までに受付をして頂ければ当日の受診も対応しておりますが、新患外来も休診日が不定期にありますので事前に予約を取って頂いた方が確実です。

また、再診外来ではより多くの方を拝見するために病気によっては検査やお薬の調整が終わった後には近在の医療機関に診療をお願いしています。限られた医療資源を有効活用するために、患者さまにもこうした医療連携に理解と協力をお願いしています。

昨年度は初診患者さまが1216名、再診患者さまが5463名でした。

入院診療

昨年は286名の入院がありました。内訳は脳卒中が185名、てんかんが15名、髄膜炎などの感染症が17名などで、過半数が脳卒中の患者さまでした。9割の方が緊急入院で、当院では急性期治療を行います。急性期治療が終了した際にはリハビリテーション病院をはじめとして体調に応じた転院・退院のご相談を承っております。

（脳神経内科部長 片桐 明）



医務局 糖尿病・内分泌・代謝内科

病気のおはなし ～糖尿病について～

■糖尿病とは

糖尿病とは食事からのエネルギーを適切に利用できず、血液中のグルコース（血糖）が増える病気です。症状がわかりづらい病気ですが、放置すると自覚がないまま全身に様々な合併症が生じ、寿命を縮めます。合併症を防ぎ、健康な人と同様の生活を送れるよう、食事や運動など生活習慣の改善や薬物治療を行います。そのためには、病気の正しい知識を身につけ、自分に合った治療法を見つけることが重要です。

■合併症外来

合併症を早期に発見・管理するためには、全身をくまなく検査する必要があります。当院では、眼科や歯科口腔外科とも連携して、合併症の検査を外来でまとめて行います。当院通院中の患者さまだけでなく、地域の患者さまも受け入れているので、糖尿病の合併症検査をまだ行ったことのない方や気になる症状がある方はご相談ください。

■「糖尿病教育入院」と「糖尿病教室」

当院では、糖尿病教育入院や糖尿病教室を積極的に行っています。糖尿病教育入院では、約2週間で患者さまごとに最適な治療を行いながら、医師・管理栄養士・看護師・薬剤師・理学療法士などから病気に関する知識を学ぶことで、糖尿病とうまく付き合う方法を身につけます。外来通院中の患者さま向けには、糖尿病教室を毎週開催しています。外来で集団形式の講義を行い、各専門スタッフから病気の正しい知識を学べます。年間で糖尿病教育入院 93名、糖尿病教室 204名とコロナ禍にあっても多くの方にご参加いただいています。

糖尿病は全身の血管の病気です



■肥満症と減量入院

ただ太っている状態（肥満）は病気ではありませんが、内臓脂肪がたまると、糖尿病・高血圧症・脂質異常症などになりやすく、こうした状態を肥満症と呼び、治療が必要です。治療の基本は減量ですが、近年、血糖値を下げるだけでなく、食欲を抑えることで減量を促す GLP-1 受容体作動薬が糖尿病治療薬として登場しました。当院でも糖尿病のある肥満症患者さまに積極的に使用しています。

また、約2週間の減量入院も行っており、安全に配慮したカロリー制限、運動療法や薬物治療で、短期間での減量とその維持を目指します。

■糖尿病患者会（マイライフファミリー）

糖尿病患者会ではレクリエーションを通して直接患者さまと交流の機会を設けており、管理栄養士による料理教室など、糖尿病患者さまの診療支援も行っています。糖尿病と言われた方、ご家族、糖尿病について興味をお持ちの方など、どなたでも入会することができます。

糖尿病教室、合併症外来、糖尿病患者会への参加など随時受け付けています。ご興味のある方は外来11・12受付までお問い合わせください。

（糖尿病・内分泌・代謝内科 仲 理允）

看護局 10階東病棟の紹介

10階東病棟は呼吸器内科疾患の病棟です

主な疾患

- 呼吸不全
- 呼吸器感染症
- 免疫・アレルギー性肺疾患
- 間質性肺疾患
- 閉塞性肺疾患
- 肺腫瘍
- 肺循環障害
- 胸膜疾患 など

入院の割合は、予定入院が45%、臨時入院は55%で、緊急入院するケースが多い病棟です。治療を受けるご本人の意思を尊重して、疾患の治療、障害を来した肺機能の維持や、呼吸困難などの症状緩和などを行います。また、自宅で安心して療養生活を送ることができるようにセルフケアの指導や、支える家族の思いを踏まえ療養先をサポートしています。

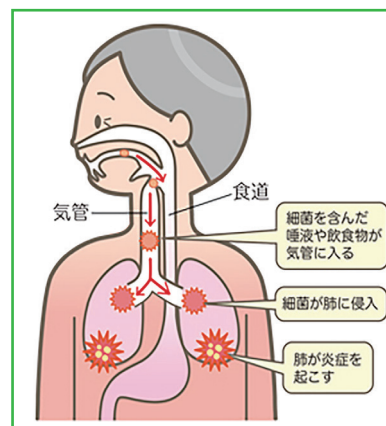
■誤嚥性肺炎“家庭でできる肺炎予防”についてお話しします。

日本人の死亡原因は、1位 がん、2位 心疾患、3位 脳血管疾患、4位 肺炎となっています。肺炎は様々な原因で発症しますが、誤嚥が原因となる肺炎は全体の70%になります。年齢とともに嚥下機能が低下するため、高齢者に起こりうる病気ですが予防はできます。

1. 細菌を含む分泌物の誤嚥

口の中には、細菌が歯や舌の表面に住み着いています。細菌を含んだ唾液などの分泌物を誤嚥し、肺に入ってしまうことで炎症を起こします。虫歯や歯周病がある人ほど細菌が多くなるのでとてもリスクが高くなります。

*虫歯や歯周病がある方は、早めの治療が得策です。お口の清潔と乾燥防止が大切です。入れ歯のお手入れもしっかりとしましょう。



2. 胃食道逆流による誤嚥

胃内容物が逆流し誤嚥することにより肺炎になります。胃内容物には酸や消化液が含まれており、肺に到達するとあっという間に炎症を起こしてしまいます。高齢者が発症する多くの原因は、夜間睡眠中による胃内容物の逆流によるものです。

*げっぷや咳込時に少しでも吐いたものがないか確認してください。

*食後は最低でも30分～1時間は座った姿勢をとりましょう。

*ベッドにいるときは少し頭を上げている体勢が逆流を防ぎます。

*むせ、鼻水に注意してください。

鼻水と思っていたのが実は、喉のしまりが悪く、鼻に逆流していることがあります。

3. ちょこっと情報！若い人でもご注意を！

- ・泥酔して寝ることが多い
- ・睡眠薬を常用している
- ・虫歯や歯周病がある
- ・急いで飲食する
- ・食後すぐ横になる

上記に当てはまる方は誤嚥性肺炎になる可能性が高まるため、気を付けましょう。



話すこと、歌うことは、喉・舌の筋トレになります。

お口の清潔と、喉・舌の筋トレで

誤嚥性肺炎を予防していきましょう。

(10階東病棟 川野 貴美子)

医療技術局 放射線技術科の取り組み

■被ばくの最適化について

被ばくというと、よく分からないけど怖い、といったようなネガティブなイメージをしてしまいがちですが、レントゲン等の検査で利用される放射線量では、直ちに影響が出るようなことはありません。100mSv という量に至るまでは発ガン等のリスクは認められていないのですが、より安全を考慮し、少ない方がよいと考えられています。

そこで放射線技術科では、安心して検査を受けていただくために、余分な被ばくを伴う検査が無いか定期的にチェックを行い、設定や検査技法に問題がないか被ばく量の観点だけではなく、検査の質の観点など多角的に検証を行っています。その結果、十分な検査の質を保ちながら被ばく量を低く保っております。

その取り組みと、結果などをホームページに掲載しております。QR コードからアクセスしていただくと、閲覧できますので、ぜひご覧下さい。

確かに被ばくは少ない方がよいのかもしれませんが、そのために悪いところを見つける、または悪くないことを証明するという、本来の目的を達成できなければ意味がありません。そこで以下のような検討もしております。



▲取り組みのページ

■最新の検討事項のご紹介

子どもの股関節の撮影などで、生殖腺に当る放射線量を少なくするために隠して撮影する、生殖腺防護を行うのですが、その生殖腺防護を廃止しようという世界的な動きがあります。

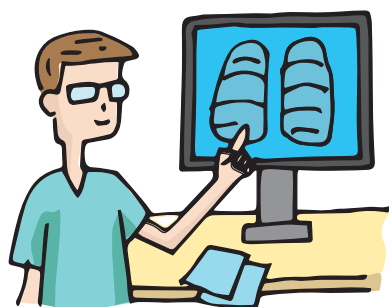
なぜかという、図の▲のように生殖腺防護のために隠した部分に重要な情報があることがあるからです。骨折等を見逃したことによって本来行われるべき治療が行われなくなってしまうは大変です。また、被ばくによる生殖腺への影響は、従来考えられていたものよりも少ない事があきらかになりましたし、あらゆる技術の進歩等によって、1890年代のレントゲン撮影に比べて、最近の被ばく量は 1/400 にまで減ったといわれています。

これらの理由から、行わない方がよいと考えられるようになったのです。当院も患者さまに不利益が生じないように廃止するべきか、検討を行っています。

このように、皆様に安心して検査を受けていただくために、当科では今後もこうした取り組みを続けてまいります。

防護あり

防護なし



◀ 放射線技術科メインページ

(放射線技術科放射線管理室 上野 友文)

認知症ケアチームの紹介

高齢化の進展とともに認知症の人の数も増加し、2025年には約700万人になると予想されています。2015年には、「認知症の人の意思が尊重され、出来る限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」を目指し、厚生労働省と関係府省庁との共同で認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）が策定されました。認知症の人にとって急性期病院への入院は、急激な環境の変化への適応が難しく、自身の思いや苦痛を的確に表出することに困難があるため、混乱や不安を招きやすくなります。さらに、急性期治療を受けるなかで、行動・心理症状（BPSD）の出現や日常生活活動の低下、退院後の在宅生活や介護の問題、施設入所の対応など、さまざまな困難が起こりやすい状況にあります。このような背景から、医療機関では、認知症をもつ患者さまの身体治療への対応が広く求められ、当院では2016年に認知症ケアチームが設置され活動しています。

認知症ケアチームのメンバー



精神科医、
脳神経内科専門医、
社会福祉士、
認知症看護認定看護師、
薬剤師、
作業療法士で
構成されています

活動内容

🌸 週1回のカンファレンスの実施と病棟回診

病棟スタッフと連携し、認知症症状の悪化の予防、入院生活の環境調整やコミュニケーション方法などについて検討し、ケアや支援に関するアドバイス・提案を行っています。

🌸 職員向けの学習会の開催

研修会を実施し、院内スタッフの知識の向上、実践に役立てています。

認知症ケアチームは、多職種で構成されており、専門知識をもったチームスタッフが、患者さまの退院後の生活を見据えながら、治療や看護ケアを共に考え入院生活を穏やかに送れるよう支援する医療チームです。急性期医療の場であっても、認知症をもつ患者さまやそのご家族が、安心して治療にのぞめる環境づくりと適切な認知症ケアが提供できますようチームメンバー一同努めてまいります。

（認知症看護認定看護師 高梨 敬子）



君津中央病院附属看護学校



令和5年度オープンキャンパス

7月31日・8月1日に、令和5年度のオープンキャンパスを開催しました。二日間の参加者は、ご家族の方を含めて221名となり、多くの皆さまにご来場いただきました。

コロナ禍においては参加者の人数やプログラムを縮小して開催していましたが、今年度は従来通りの開催方法に戻り、賑やかな二日間となりました。

本校のオープンキャンパスは、学生がスタッフとして参加します。受付や案内等、様々な役割を担う学生たちが、明るい表情で来場者を迎えてくれました。当日は晴天となりましたが、厳しい猛暑の中でスタッフとして参加した学生たちの額には汗が光っていました。そのような学生たちの努力の甲斐あり、来場者向けアンケートでは、学生に対するお褒めの言葉を多く頂戴いたしました。

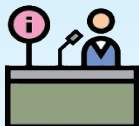
看護学校職員・学生一同は、看護の道を志す新入生が多く本校に入学してくださることを望んでおります。今年度のオープンキャンパスに参加した皆さまが、いつか本校の学生として同じようにお褒めの言葉をいただく日が来るかもしれません。

学校説明会



沐浴体験





面会について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため入院患者さまへの面会に大幅な制限を行っていましたが、段階的に面会制限の緩和をしております。

○面会の条件

- ・親族、同居のパートナー（友人・知人不可）、キーパーソンの方で、病院発行の「家族証」を持参している方。
面会時に「家族証」をお忘れの場合は、面会できませんのでご注意ください。
- ・面会は1日1回で30分以内。（面会時間内に限ります）
- ・面会人数は2人まで。

○「家族証」の取得について

- ・入院手続きの際、「家族証申込書」をお渡しいたしますので、病棟で手続きを行ってください。

○面会時間

- ・平日（月～金曜日） 13時00分～19時00分
- ・土・日曜・祝日 11時00分～19時00分
- ※原則、緊急時等により病院の求めに応じて来院する方を除き、面会時間外の面会はできません。

○面会当日の流れ

- ・「家族証」を持参し、面会時間内に直接病棟へお越しください。

○守っていただくこと

- ・院内では必ずマスクを着用してください。マスク着用なしでの面会はできません。
- ・体調不良の方は面会できません。



がんサロン開催のお知らせ

がんサロンは、同じような悩みを持つがん患者さまやご家族が病気の悩みや体験などについて語り合う場です。
がんサロンでの出会いや交流を通じて、気持ちの辛さや不安が少しでも和らげられるようになればと願っております。
ぜひ一度お越しください。

日時

12月15日(金)、令和6年1月19日(金)、2月16日(金)
毎月第3週金曜日 14時30分から16時まで

場所

4階 講堂1 ※予約は必要ありません。 費用無料です。

お問い合わせ先

電話 0438-36-1071(代) 担当：ソーシャルワーカー 保坂 まで